

緑の相談所だより

No.109

発行日
編集・発行

平成19年12月1日
財団法人旭川市公園緑地協会 緑の相談所



講習会のご案内

12月開催!

『クリスマスからお正月の寄せ植え』

とき 平成19年12月2日(日) PM 1:30 ~ 3:30

講師 フラワーマスター 山本 裕美 さん

定員 20名 教材費 2,000円

募集終了

11月26日で申込みを締め切らせて頂きました。

募集は定員になり次第、締め切らせていただきます。
お申込みはお早めをお願いいたします。
会場は旭川市緑の相談所(旭川市神楽岡公園内)です。
お申込み・お問合せ・ご相談は、
旭川市緑の相談所 (0166)65-5553 まで。

2月開催!

『冬から春に向かったの洋ランの育て方』

とき 平成20年2月3日(日) PM 1:30 ~ 3:30

講師 旭川蘭友会 笠原 幸三さん

定員 50名

予約です。

展示会のご案内

『神楽岡公園の四季写真展』

とき 平成20年2月1日(金) ~ 2月29日(金)

AM 9:00 ~ : PM 5:00

会場 緑の相談所 ロビー

『果樹の剪定と病害虫防除』

とき 平成20年2月24日(日) PM 1:30 ~ 3:30

講師 緑の相談所 相談員 佐藤 吉光

定員 50名

予約です。

年末年始の休館のご案内

平成19年12月29日(土) ~ 平成20年1月4日(金)まで

緑の相談所は休館させていただきます。

1月5日(土)より、通常通り開館いたします。



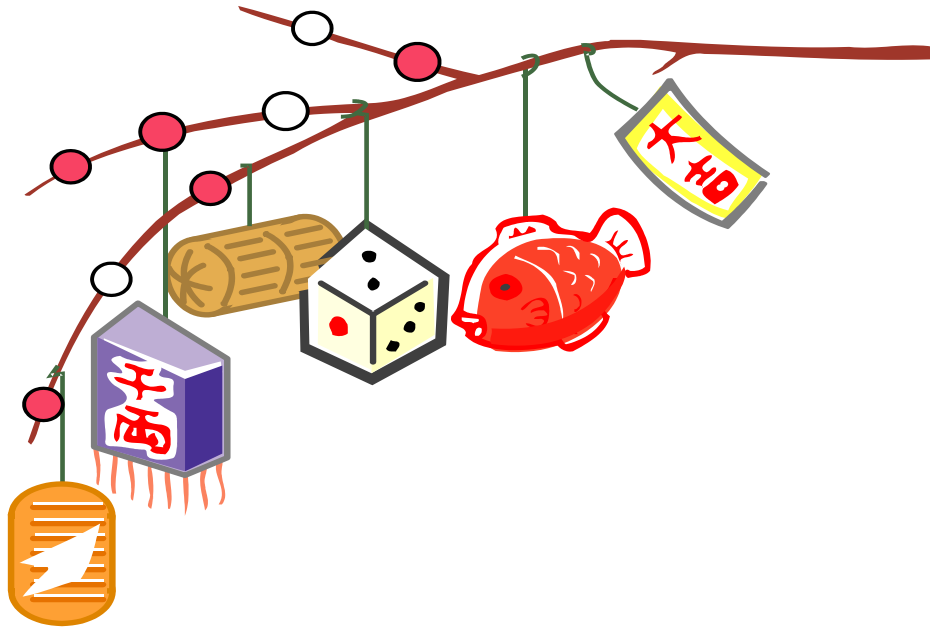
まゆ玉の木 「 ミズキ 」

ミズキ科 ミズキ属

日本のお正月には欠かせない木で、まゆ玉はこの木に飾ります。

ミズキの名は水木の意で、樹液が多く特に早春は伐ったり、樹皮に傷をつけたり、枝を切ると水が滴り出るため名づけられました。

お正月にまゆ玉を飾る家庭が多いですが、まゆ玉は本来餅や団子などを小枝に刺し、五穀豊穰を祈るためのものです。今ではお正月の単なるお飾りと思っている人が多くなっています。

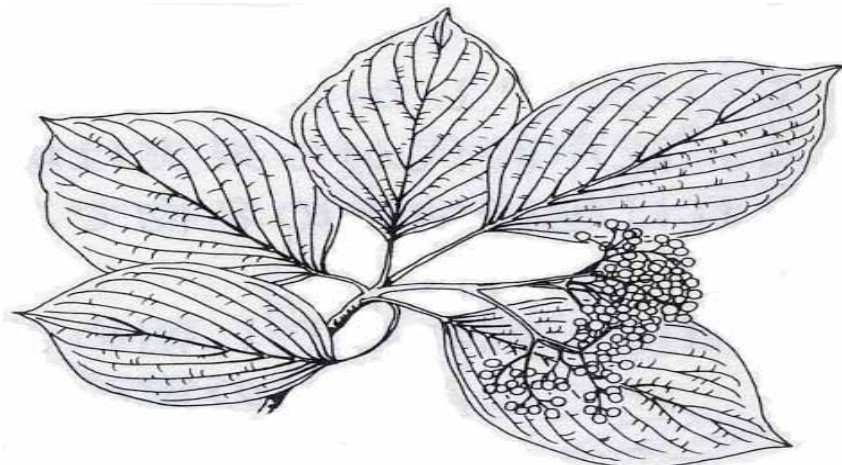


冬の小枝が美しい落葉高木

北海道から九州まで、低山、原野に分布し、まっすぐな幹に階段状に大枝が輪生し、それが水平に伸びて独特な樹形をつくります。生長するのが速く、枝は冬から春にかけて紅色に色づいて大変鮮やかです。花は6月頃から咲き、小さい花が集まって房を作り、一斉に咲くと樹の一面が白く見えます。

木肌は白く美しい緻密な散孔材

材が白くて緻密で細工しやすいことから、東北地方ではこけしの主な材料となっています。また、盆、椀などの漆器生地や杓子、箸などの小物、玩具などにも使われます。



踊りハボタンの作り方

葉ボタンが多年草になる -

踊りハボタンとは普通の葉ボタンを翌年まで持ち越し、わき芽を出し枝分かれさせて仕立てたものです。

株の用意

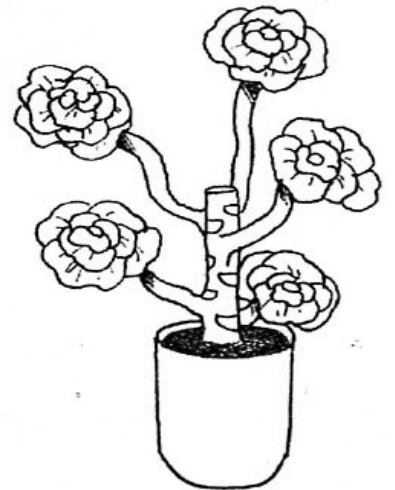
- ・ 花壇やプランターで使用したもの使います。株の選び方は出来るだけ大株で元気なものを選びます。
- ・ 葉ボタンには丸葉系、細葉系、ちりめん系などがありますが、丸葉系が丈夫で作りやすいでしょう。

冬越しの方法

- ・ 鉢植えにして室内の凍らない程度の低温のところに置きます。(水をかけ過ぎないこと、乾燥気味に)
- ・ 15 くらいのところまで育てて大型にする方法もあります。
- ・ 旭川では屋外の越冬は出来ません。

管理方法

- ・ 傷んだ下葉は順次かき取り、茎を伸ばします。
- ・ 花芽は咲かない様に切り取ります。
- ・ 4月頃には20センチくらいで芯止めして植え替えます。
- ・ 液肥を与えて日当たりの良いところで育てます。
- ・ 3から4本仕立てにして秋の低温を待ちます。
- ・ アオムシ、ヨトウムシ、アブラムシの防除がコツ



展示室の植物たち(17)

ポインセチア (和名 ショウジョウボク)

トウダイグサ科ユーフォルビア属

メキシコの山地原産の常緑低木で、高さが5メートルほどになります。花は杯状花序で小さく目立たないが、苞と呼ばれる葉が変化したものが美しい色になります。ヨーロッパなどで品種改良され、最近は赤のほかピンクやクリーム色などが市販され、クリスマスの鉢花として出回っています。

花名の由来は1825年、アメリカのメキシコ大使ポインセット氏がアメリカに持ち込んだのが最初で、その後ヨーロッパに普及しました。19世紀後半、魔よけの赤色をクリスマスに飾る風習が、欧米ではポインセチアを飾るようになったといわれています。日本には明治中期以降に渡来しました。



相談所の温室には地植えの3メートルくらいのもがあり、12月に入ると苞が色づき来館者を楽しませてくれます。

12月の園芸作業

1 鉢花・観葉植物類

シクラメンは日光が良くあたる場所に置き、昼間は15~18度、夜間は5~8度、液肥(1000倍程度、半月に1回)を与えましょう。

ポインセチアの色づいた花のように見えるのは苞と呼ばれる葉が変化したものです。この苞が出ない場合は、夜はダンボールで覆うなど短日処理をしましょう。また、シャコバサボテンやカラコエも花が咲かない場合は同様にしましょう。

クンシランは花茎の上りをよくするために10度程度の低温で水はやらずに管理します。花茎が伸びてきたら居間に置き、水と肥料を与えましょう。

アザレアは10~15度の場所で育て、40~50日で開花します。開花株はやや寒い部屋の窓辺に置き、鉢土が乾いたら水やりをしましょう。

観葉植物のほとんどが暖房による空気の乾燥を嫌うのでこまめに霧吹きするか葉面をぬれた布でふきましょう。

また、低温で落葉することもあるので15度以上で育て、肥料の必要はありません。

クジャクサボテンは水やりを中止し無暖房の室内で夜間凍らない程度の場所で休眠させ、夜間照明する部屋には置かないようにしましょう。

サンスベリアは最低5~8度まで下がる室内では水やりは中止しましょう。

2 洋ラン類

シンビジウムの花茎が伸長し始めた鉢は、日中日当たりの良い場所で温度は10~15度を保ち、水は5~7日おきに1回たっぷり与えましょう。発生している幼芽は残します。

デンドロビウムノビル系は花芽分化の始まる大切な時期ですので日中20度以下、夜温も7~10度で管理し、水は控えめに与えましょう。

コチョウランは10度以下では生育を休止し、根を傷めますので、最低気温が18~20度ぐらいを確保し、水やりは乾いたら与えましょう。

カトレアの冬咲き系はシースの中に蕾ふくらむ時期です。支柱を立てて花茎を固定し、水は花芽の成長に応じて乾くため4~7日に1回くらい与えましょう。この時期は肥料は吸わないので与えないようにしましょう。

1月の園芸作業

1 鉢花・観葉植物類

昨年資料を参考にして、今年の栽培計画を立てましょう。月めくりの余白のあるカレンダーを用意し、各月の園芸作業を書き込んで、目のつくところに吊しておく便利です。

厳冬期の管理で一番大切なことは室温の変化、特に最低気温が何度になるかによって水やりや施肥に違いが出てきますので注意しましょう。

シクラメンは花が終わり、葉が傷んできたら随時、花・茎をひねって、根もとから抜きとりましょう。

アマリリスや球根ベゴニアなど休眠から覚め芽が出てきた場合は植え替えをして、居間などに移して、水やりし加温しましょう。

ハイビスカスは雪降りなどのため光線不足で花つきが悪い時期です。伸び過ぎている場合は切り戻して側枝を出しましょう。

シャコバサボテンの花が咲き終わった株は最低5度くらい明るい部屋で、乾燥ぎみに管理しましょう。

正月に鑑賞されたハナウメの盆栽などは花が終わると新芽の出ないうちに戸外に出し枝が折れないように囲いなどをして雪の中に戻しましょう。

観葉植物は低温を嫌うので置き場所に注意し、乾かし気味に管理しましょう。特にサンスベリアは水やりは控えましょう。

アデニウム(砂漠のばら)やクラッスラ属(金のなる木)アロエ(千代田錦)、花キリンなどは窓辺で日光に十分あて水は控えましょう。

2 洋ラン類

シンビジウムの開花中の鉢は10~20度で管理し、肥料は与えず、花芽が伸びるにつれて水分が必要となることから5~7日に1回くらい与えましょう。

デンドロビウムノビル系は花芽が確認できるまで、12月同様低温で管理しましょう。

コチョウランは冷え込みが厳しくなる時期です。12月同様に管理し、またパットに水を入れタオルを敷いてその上に鉢を置くなどの湿度対策もやりましょう。

カトレアの開花中の鉢は温度13~23度を保ち、水やりは鉢の中がわずかに湿っている状態にし、開花には高い湿度と日光が必要です。